
やり返す

蜜実

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

やり返す

【著者名】

NZマーク

【作者名】 蜜実

【あらすじ】

やられたらやり返す。それってきっと…

(前書き)

初作品です
意外な結末は無く、淡々としていますが、よかつたら読んでやって
下さい(・・)

… 今のところ、食に困った事は無いし、まあ、私はそれなりに幸せに暮らしているのだと思う。

でも、その幸せも永くは続かないことを私は知っている。
近いうちに、私はきっと殺されるであろう。

私には前世の記憶がある。

前世、私は”人間”という動物であった。

私はメスの方で、それはそれは勝ち気な性格であつたような気がする。

やられたら、私はいつもその倍にしてやり返していた。

一回ぶたれたら一回ぶち返した。

一個取られたら一個取り返した。

だからあの時も、私はやり返したのだ。

一匹殺されたから一匹殺り返した。

八月下旬。

私は友人と地元のお祭りに行き、金魚すくいをした。

私は一匹、友人は二匹の金魚をすくうことができた。

私のすくつた金魚は黒くて大きめだった。

一方、友人の金魚は一匹とも赤くて小さめだった。

私と友人は、三匹の金魚を共に育てることにした。

先生から許可をもらい、学校の理科室で。

朝と昼と放課後に、二人で餌をやりに行く。

その時、友人はよくこう言つた。

「黒い金魚って不気味だよね。やっぱり金魚は赤い方が可愛いなあ。

」と。

それは、ある日の放課後に起こうた。

その日の放課後、いつものように一人で餌をやりに理科室へ行くはずだった。

でも、私は掃除当番だったので後から理科室に行くことになった。掃除が終わり、理科室へ向かう。

ドアを開けると、そこには泣きじゃくった友人の姿があつた。そして「クロが死んでる」と言つた。

クロとは黒い金魚のことで、私がすくつた金魚の方だ。水槽に近付いてみると、クロがぷかぷかと浮いていた。餌を散らしても口を動かさない。

クロが食べないまま下に落ちて行く餌は、赤い金魚二匹がぱくぱくと食べていく。

その日、一人で学校の校庭の隅にある桜の木の下にクロを埋めた。その時、なんとなく思つた。

クロは友人が殺したんじやないか、って。

どうしてそう思つたのかはよくわからない。

でも、前から友人はクロのことを不気味だとが言つて、良くては思つていなかつただろうから、そんな気がした。

友人が掃除当番となつた次の週。

私は殺り返した。

やられたらやり返す。

殺されたら殺り返す。

それも倍返しだ。

どんな殺り方をしたのか覚えていない。

その後、その友人とどうなったのかも覚えていない。

でも、殺つたのは確かだ。

だって私は、こんなにも前世の記憶があるまま、現世では金魚として生きているだから。

きっと殺り返されるのだ。

やられたらやり返す、とな、やつたらやり返される、といつ事だ。

私は、少なくともあと一回は金魚として生まれ変わるのであいつ。
二匹殺したのだから。

それとも一倍返しで、計四回、金魚として生まれ変わるのだろうか。

そんな事を考えながら、段々意識が薄れてく。
桜の木の下の土の中で。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8577c/>

やり返す

2011年2月2日05時06分発行